

- 1 開会の言葉
- 2 学校評議員委嘱
学校長挨拶
- 3 授業参観 (全日制) 14:50～
- 4 出席者自己紹介
- 5 篠ノ井高校の概要説明

○校長

課題山積である。大学教育改革、教育課程改革、高大接続改革があるが特に高校改革においては、生徒の夢を実現する高校の在り方がある。また働き方改革がある。開かれた学校、カリキュラムマネジメント等の改革は学校だけでは完結しないということは重々承知している。保護者、同窓会、学校評議員会の 3 つの組織が連携してやっていかなければいけない。従来、改革は失敗してはいけない、悪いところがいけないという考え方であったが、今は少子化の時代の中で、どうすれば子供を輝かせるかという点で進めていかなければならない。本日の授業見学では、教育実習生の授業もあったと思うが授業のやり方が変わってきたことを見てもらえたと思う。教育条件例えば電子黒板等を整備する点では、RESAS 事業の対象校になりスタート地点に立っている。引き続きいい学校づくりにご協力いただきたい。

○全日制教頭 (学校評価、学校概要等)

特進クラス授業、探究的な学びを取り入れた授業を見ていただいた。1 年次より必須で取り組み長野市との連携として長野市出前授業を行っている。また生徒自らが取り組むこととして中庭の池の整備を行った。ご覧いただきたい。また RESAS 事業として各教室に電子黒板が設置し生徒用にタブレットを導入する。

○進路指導

大学入試等に係るポートフォリオの蓄積のため Classi を取り入れ取り組んでいる。国公立大入試結果は昨年より微増し、私立大ではマーチレベルの大学にも合格者がいる。

○生徒指導

落ち着いた生活をしている。スマホの利用については犯罪につながりやすいサイトもあるので利用について生徒に呼び掛けている。交通安全についても呼び掛けをしている。

○1 学年主任

女子生徒の割合が増えた。Classi を利用して生徒、職員が入力している。ポートフォリオに利用している。スマホの利用もできる。

○2 学年主任

クラス替えがありスタートした。特進クラスの生徒が成績面で頑張っている。夢ナビに全員で参加する。メンタルが弱い生徒の対応が難しく、また疲れている教員もいる。

○3 学年主任

昨年アメリカからの留学生の影響がいい意味であり、本年度ヨーロッパドイツに留学する生徒がいたり、英検受検者の人数が増えたりしている。また天文部が 30 名以上と人数が増え、火星観測などをする予定である。運動部で活躍する生徒も多い。

○定時制教頭

生徒、保護者のアンケートから篠高定時制でよかったという数が多い。いろいろな背景を

持った生徒たちにきめ細やかな指導をしている。

6 意見交換（評議員の皆様からの提言）

- IT でないとできないこと、また IT に振り回されるケースが大学でもある。IT を使いそれをどう評価するか。本来話した方が効率よいということもありデメリットもある。
- 高い評価の項目がある生徒、保護者からのアンケートについて説明があった。評価が低いところから改善点を目標にするというロジックが一般的なので一考が必要である。
- 教員が疲れ、メンタル弱い生徒の実情は大変よくわかる。学習面の成果だけだと歪が生まれる。何らかの対応策を持っていた方がよい。できるところから検討してほしい。
- 探究的な学びの進め方は他校に比べて今まで足りなかったのでもいいことだと思う。生徒の反応は余計な事と捉えたり受験にどう影響したりとか、単位に含まれないからと捉える生徒もいるだろうし、逆にのめりこむ生徒もいるであろう。
- 中学生にも人気があり希望しても入れない高校である。送り出す立場としてはアンケートにある入学してよかったという満足度が全定含めて高く我々としてもありがたい。進路実現に向けて一人ひとり大事にしながら話を聞いてほしい。探究的な学習は小中でも取り組んでいるが、授業をやるうえでやる側のズクがいる。しかしそれが結果的に子供たちの力になるので実践してほしい。この地域は学校に協力的なので、どんどん地域にでた活動をやってほしい。中学校でも参考にしたい。
- 主体的・対話的な学びは授業を見てもコミュニケーションが取れていていい。いいところを伸ばしてほしい。ICT の話では知的好奇心を伸ばす取り組みができる。使うべきことと使わなくてもいいことを判断して利用したい。高校の在り方は基礎を大切にしてほしい。履き違えて IT 使うのはよくない。AI が学校、就職先、銀行などに導入されるだろうがバランスよくやってほしい。
- 授業に集中していて静かに取り組んでいる。進学率も高くなっていて近所でも人気で憧れの高校である。ICT については電子黒板導入の成果を 2 月に聞きたい。
- 授業熱心でまじめな生徒多い。普通科の進学校という以上、篠ノ井地区でなく日本全国に散っていくので、広い世界の中で自分はどうなのかという視点が大切である。IT は自分で使うもの。どう使っているかを目的に使ってほしい。スマホに使われるのではなく、自分確立のため利用する。発展を期待している。

7 まとめ（校長）

普通科の大学進学を目指すノビシロある高校と認識している。篠ノ井高校の「夢に挑戦する学び」は県のキャッチフレーズであるが、実施案は本校で検討したもの。普通科教育のたたき台として提示し、個々の資質能力を伸ばす教育を目指している。ICT に関しては一斉授業から脱却する一つのツールとして扱いたい。

主体的・対話的で深い学びは、意見の違う他者と協力して学ぶことであるが、メンタル面で弱さを持つ生徒も教室にはいる。一斉授業では隠れていたが今後は表に出る機会が増えるので、その対応も課題になる。場合によっては個別の指導計画も必要になってくる。しかし全てを抱え込めば職員が疲弊する。教育課程の減量も考えて対応したい。いい方向にしたいので、本日の意見を参考にして改善していきたい。

8 授業参観（定時制）